

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150280024		
法人名	医療法人社団 芳香会		
事業所名	グループホーム西唐津駅前		
所在地	唐津市西唐津1丁目6167番地		
自己評価作成日	平成 22年 2月 13日	評価結果市町村受理日	平成22年 5月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年 3月 10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①飲み障害を無くそうを目標に1日数回の食前に嚥下体操をしている
②皮膚の乾燥を防ぐ為、アクアラン油・サフラワー油・アボガド油・ミネラル油等配合されたオイルを入浴後体に塗り保湿している

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物は閑静な住宅地の中で、近くには市民ホールや商店などもあり、活動しやすい場所にある。建物の2階が施設で、入居者の方も階段を使って移動されており、足腰の筋力維持にも役立っている。入居者で合唱サークルを作られ、地域の行事や発表会に積極的に参加されている。意欲的な生活の支援を実践されている。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊敬、思いやり、安らぎの理念と1年間の目標を立て、気付きノートや連絡ノートを使用し情報の共有で実施している	法人としての理念を基礎とし、職員が持ち寄り考えた理念を作られている。高齢者の接し方について自己評価表を作り、理念の実践の振り返りをされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園との交流、りふれでの自主サークルの発表会、高齢者作品展に貼り絵、かまぼこ板パズル合せ等出品し、見学に出掛け交流をしている	保育園児との交流、地域の福祉祭りで作品を出品し、合唱団として発表会をしたりと、積極的に地域への行事に参加し、交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人週間祭でのおたっしやコーラスの参加や福祉祭りの参加、西唐津便り等で活動されている様子を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行っている運営推進会議に参加される方に毎月のサービス内容を報告し、意見や情報の交換を行いサービスの質の向上に努めている	運営推進会議では、行政、地域、家族等各関係者が参加し開催されている。施設の状態報告、地域行事の情報収集と、活発な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は確認したり月1回の介護相談員の訪問があり、サービスの取り組みや色んな情報の交換をしながら取り組んでいる	成年後見についての問合せをしたり、適切なサービス実施に向けて相談、助言を受けたりと、連携を持ち、日々取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受け文書等回覧し、身体拘束の排除の理念を作りケアに取り組んでいる	身体拘束はしないこととし、施錠もしていないが、書類は整備され、研修も実施されており、身体拘束をしないケアの理解と実践がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学び、日々の介助においても心身両面での変化等見逃さない様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について学び、必要な入居者の方には活用できる様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居の際には、利用者や家族の方が不安にならない様十分説明を行い、納得される様支援している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を入りに置き、自由に意見を書かれる様にしている 又家族の方の面会時要望等聞く様にしている 利用者の方々とはお茶タイムでそれとなく話しかけ、要望等聞く様にしている	週1回もしくは月一回、入居者の家族が面会に来られた際に、介護記録を開示し入居者の様子を伝えている。家族と面談する時間なども作り、家族の意見も聞く仕組み作りがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノート使用で意見や提案等書ける様にしている	何でも遠慮なく書ける、連絡ノートを作り、情報の共有と提案が出来るようにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人に合せた勤務表作りや、各自仕事の分担をし、責任を持って働ける様整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、受講した研修内容について回覧出来る様にしている 法人での勉強会は、皆んなが参加出来る様事前に情報提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修会の参加や、系列法人のグループホームとの交流をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が馴染まれる様言葉かけを行い、希望に添える様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の相談を良く聞き、希望に添える様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の方の希望されている事を聞き、必要とされているサービスの利用も含め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人が出来る事はしてもらう事を目標に立て、生活の中で役割分担し出来ない部分は職員の言葉かけと共に一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を取り、互いに協力し合いやりがいのある関係を築き支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みのある方との関係が途切れない様、訪問の受け入れや言葉かけをしている	利用料の支払いを兼ねて、毎月1回は面会に来てもらうよう、家族等との関係作りに努めている。面会の帰り際にも、また来てもらうよう声かけに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や自立等把握し、孤立なく過ごされる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ本人・家族をフォローし相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握に努め、希望に添える様努めている	各職員は、入居者の生活歴を踏まえて、10時のお茶の時間などに、日常会話から入居者の意向を引き出している。それを、気づきノートに書き込み、職員間の情報共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴・趣味や得意な事等、自己紹介等で尋ね記録に残し、情報の共有で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や、職員の一人ひとりの気付きで情報の共有をし、1日の過ごされ方や見守りで状態の変化等把握している 公休の職員も、日勤で知る事が出来る様連絡ノートを使用している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が無理なく出来る範囲で介護計画を作成し家族の方と相談をしながら介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行ない、日々のケアでの情報や、家族からの話し、各スタッフからの意見をまとめ、介護計画作りを行っている。	書類作成が煩雑で、作成者への負担も大きい。書類作成の簡素化、分かりやすい様式の工夫など、新たな計画作成の仕組み作りに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付き等個別に記録し、話し合い情報の共有をしながら介護計画の評価をし、介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて希望に添える対応で支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方からの情報の提供や、地域のボランティア等、取り入れられる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の方の希望に応じ、かかりつけの病院の受診をして密に連絡を取れる様にしている	入居者のそれぞれの主治医、希望した医療機関と連携を取りながら、対応している。24時間の医療の対応は協力医療機関と連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や定期的な受診を受け、必要に応じ病院との連携を取り支援している 又1Fに同法人の訪問看護ステーションがあり、協力してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期発見・早期治療に伴い、病院関係者・家族と相談して外来通院出来る様支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、家族の方と主治医との話し合いで、適切な医療機関への紹介や同法人での受け入れが出来る様になっている	入居者、家族と話し合い、終末期の方針や支援策を決めている。協力医療機関と連携し対応できる体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や防災訓練を行い、日頃より災害対策を検討している 又緊急連絡が付く様火災通報装置に登録している	消防署を交えた避難訓練を年2回。他、毎月1回、自主的に避難訓練を行なっている。(昼・夜想定)災害時の避難場所の把握もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を十分理解尊重し、言葉かけや対応に気配りをしている	声掛けや対応について、職員自身の振り返りのチェックリストを作っている。日々、職員自身の声掛け・対応を振り返りながら、適切なケアに務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の自己決定を重んじ、本人が希望されたり自己決定をされる様、言葉かけの方法等工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に過ごされる様、見守りにて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて、散髪されたり自分で服を選ばれたり化粧をされる等支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を活かし、利用者・職員と一緒に食事作り、盛り付け、食後の片付け等分担している 又、個人の好物等把握している	入居者一人ひとりの状況を把握し、利用者・職員と一緒に食事作り、盛り付け、食後の片付け等分担して行われている。食事時間も会話を楽しみながら食事を摂られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食材の切り方や量等に配慮し、完食出来る様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科指導を受けている毎食後の歯みがきの言葉かけや、個人に応じた支援をしている 夕食後は入れ歯の方は職員が仕上げ磨きをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ使用の方も、排泄パターンを把握し個人に合った言葉かけをし気持ち良く過ごされる様にしている 入居時リハビリパンツ使用されていても、パンツ切り替えに努めている	排泄のチェック表を作成し、排泄パターンを把握され声掛け、対応がなされている。排便の状況から健康状態も確認されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好き嫌いなく食べられる様 お好みのメニューを取り入れたり細かく刻む等調理の工夫をしている 又手作りヨーグルトを使用し便秘予防をしている、体操したり歌ったりして一日を過ごされている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	交流先でのジェットバスの入浴を利用したり、グループホームでの入浴も個人に合った支援をしている	現在は週3回入浴日を定め入浴支援をおこなっているが、夏場は入浴日を増やし支援している。他入浴希望があった際は、随時支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況で自由に休憩されたり、休まれる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬を把握し、指示通りに服薬される様支援している 病院や薬局との連携を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴をもとに、得意な事を取り入れ1日の流れの中で役割、楽しみ・気晴らしが出来る様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	交流に出掛けたり、企画を立て、季節の花見 いろんな行事に参加している 又天気の良い日は散策に出掛けている	いろいろな企画を立て地域行事へ参加したり、四季に合わせ、ドライブ、近所の散策など、積極的な外出の支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との相談の上、お金を所持されている方がおられる 職員の見守りで小遣い帳を付けられたり、レシートを貼ったりされる買い物等、職員と一緒に掛けたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」と言われた時には、いつでもかけられる様にしている 家族の方からの手紙等も、返事を書かれる様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には生活感や季節感が分かれる様、手作りの作品を掲示している 夜間は廊下のライトは明るさを絞れる様工夫している	共用の空間には、観光地へ外出した写真、地域行事に出品した季節ごとの作品、発表会の参加の写真など展示してある。面会者が楽しめ、入居者と会話が弾むような空間ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、独りになられたり思い思いに過ごされる様、ソファを置き居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に本人・家族の方と相談され、使い慣れた家具や食器等好みの物を持参され、居心地よく過ごされる様工夫している	居室それぞれが、個性を持った部屋となっており、入居者それぞれの希望、趣味等にあった、居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事を活かし、安全に自立して暮らせる様工夫をし支援している		